



大庭靖明

【再びアベノミクスを聞く】第3回 森信茂樹・中央大法科大学院教授(上) 法人減税と消費税増税のパッケージで

2014年10月29日

アベノミクス、成功なのか失敗なのか

財政 金融

ツイート 10

お読み 0

お読み シェア 0

中央大法科大学院の森信茂樹教授は元財務官僚で税制に精通している。1997年に消費税率を5%に引き上げた際の旧大蔵省における担当課長でもあった。今回の消費税率引き上げによって景気の落ち込み懸念が広がっているが、高齢化社会の進展につれて増大する社会保障費の捻出のために、消費税率引き上げの必要性を力説する。

——リフレ派の経済学者の間で「今回の消費税率の8%への引き上げが、やっと復調してきた景気回復の芽を摘んだ」という批判があります。

私は、日本が高齢化社会を迎える中において、問われているのは法人税減税と消費税増税のパッケージだと考えています。この二つをパッケージで決め、成長戦略を本気で行えば、中長期に日本経済は輝きを取り戻すと思います。

いま法人税が高いことによって、企業の付加価値が日本から逃げているという現実があります。半導体製造装置メーカーのアプライドマテリアルズと東京エレクトロンが経営統合しますが、新設される持ち株会社の本社は米国でも日本でもなく、低税率国のオランダです。これは「インバージョン」という租税回避で、これに対して米国ではオバマ政権も議会も怒って、対抗措置を講じようとしている。

このような企業の行動は、決して違法ではないけれど、法人税率が高いと、企業はこういうふうに関税に付加価値や所得を移していかざるをえない。だから税率を引き下げて防止するしか有効な方法はない。しかし、我が国は財政再建途上なので、法人税を払う課税ベースを広げて財源を出しながら、税率を下げていく必要がある。

消費税については、来年10月からの10%への税率引き上げは予定通りやるべきだ。法人税の課税ベースを引き上げたうえで税率を引き下げ、さらに消費税率を上げて、社会保障を支える。この二つを同時にセットでやるのが、国民にとっても海外投資家の評価を得る上でも重要だと思えます。我が国の株を支えているのは海外の投資家ですから、彼らが「安倍政権は国民に痛みを伴うこともやる政権だな」と評価することは重要です。

私は、外国証券会社の依頼を受けて欧米やシンガポールの投資家、ファンドの幹部と毎週のように話す機会があります。彼らとの会話を通じて感じることは、「彼らに隙を見せる政策をやってはいけない」ということ。隙を見せると彼らはストーリーをつくって仕掛けてくる。「日本は高齢化で貯蓄もなくなり、経常赤字も赤字が定着した。もはや国債を買い支えるカネがない」といったストーリーを描いて、日本売りが仕掛けられる。

今は日銀が必死に買い支えているから何とかなっていますが、これには必ず終わりが来るわけですから。そうなれば、金利急騰、利払い増加でますます財政赤字が拡大し、最終的にはハイパーインフレというメカニズムになる。日本の経済運営に隙があれば、そうやって攪乱される。それがギリシャであり、スペインだったでしょう。



森信茂樹・中央大法科大学院教授

- 「ベニスから出てくる液体ってなに？」フランス流性教育の真価(Global Press)
- あの日、中村修二氏が語った教育論、日本の教育で突出した才能を伸ばせるか(Global Press)
- 日本を目指すベトナム人留学生が増加する理由(Global Press)
- ギリシャ危機その後——国際投資が増加するも貧困層は増大(Global Press)
- 「芸能兵士」の相次ぐ不祥事に揺れる韓国の徴兵制度(Global Press)
- 竹信三恵子×深澤真紀「家事ハラ炎上！」爆走トーク(3)「昔は良かった」幻想から脱却せよ(スペシャル(経済・雇用))
- 大学生諸君、学園祭やめませんか(WEBRONZA+ 経済・雇用)
- ノーベル文学賞発表日の書店のそわそわ(WEBRONZA+ 社会・メディア)
- 【憲法で読み解く民主主義と立憲主義(4)】——二つの憲法の対立(WEBRONZA+ 政治・国際)
- 女性関係のテキーラ人選から、片山さつき氏や宮澤大臣のSMバー問題を考えた(WEBRONZA+ 文化・エンタメ)

(前日分を累計)

Facebook WEBRONZA公式ページ

WEB書評 神保町の匠

三省堂書店 × WEBRONZA



【憲法で読み解く民主主義と立憲主義(4)】——二つの憲法の対立 (10/31) 木村草太



【憲法で読み解く民主主義と立憲主義(3)】——ネットは本当にいるのか? (10/30) 木村草太
ウクライナと日口関係をモスクワ、キエフで考える(2)——崩れている東西対立 (10/29) 大野正美



【経済・雇用】
大学生諸君、学園祭やめませんか (11/01) 小原真次

中国化する日本経済、なぜ住む場所の流動化を目指さないのか (10/31) 原田泰

【再びアベノミクスを聞く】第3回 森信茂樹・中央大法科大学院教授(下) 給付付き税額控除で勤労意欲の後押しを (10/30) 大庭靖明



【社会・メディア】
下世話な表現をねらい法的責任を追及する権力——産経前ソウル支局長起訴 (11/01) 川本裕司

ノーベル文学賞発表日の書店のそわそわ (10/29) 白井恵美子

“奇跡の釜石”めざし、ラグビー19年W杯開催地選定で新たな価値創出を (10/25) 松瀬学



【科学・環境】
汽車の汽笛は本当にポッポーか? ~認知科学者、保育園で世界認識の根幹を知る (11/01) 下條信輔

今秋の彗星は熱い:世界初の軟着陸と百万年に一度の大接近 (10/30) 山内正敏

人間の行動を規定する驚きの法則~WEBRONZAを執筆した日には別の原稿を書くことができない理由 (10/29) 湯之上隆

記事の更新

——消費増税による経済環境の悪化をどう思いますか。

そもそも「想定外」などと言われていますが、「想定が甘い」と思います。

増税前に駆け込みがあってその反動で落ちるのは仕方がないとしても、年率換算で7兆円強の所得が消費者から国に移転しているの、単純には増税前の状態には戻らない。そこが、そもそも十分に認識されていない。

私から見れば、ホントの「想定外」は、円安になれば輸出が伸びるはずなのに、伸びていないということです。実質ベースでほぼ横ばい。この間の円高局面で日本企業は海外に生産拠点を移転させて為替変動に感わされないようにしてしまった。むしろ円安に振れすぎると輸入コストが上がって、インフレになる。この円安効果が大きく表れなかった点が想定外だった。

もう一つの想定外は、あれだけ財政出動して公共事業を追加してもうまくいかないということ。人手不足のせいで公共事業はどうしようもないほど未達。入札も不成立。入札してやろうにも労働者がいない。供給の天井がこんなに早く来るとは誰も思っていなかった。

この点にアベノミクスの第1の矢、第2の矢の限界が見え隠れすると思います。

◀9月18日付の朝日新聞によれば、建設業界が受注している公共工事額から、すでに終わった分の工事額を差し引いた「未消化工事高」が7月、16兆7333億円を超え、統計をとりはじめた09年1月以来最も高い額となった。通常は10兆～12兆円台という▶

——財務省の見通しが甘かったのですかね？

財務省はそこまでは考えていないでしょう。消費税率が上がればいい、ワンショットの補正は仕方がない、と思っていただけじゃないでしょうか。昔から経済見通しは強くない(笑)。

——なぜ、甘い想定や想定外を招いたと考えますか？

エコノミストがあまりに短気の政策にこだわりすぎ、大きなトレンドを語ろうとしない点が問題だと思います。英国でもドイツでも消費税率を引き上げてから本来の成長軌道に戻るまでには多少の時間を要しています。すぐに戻るはずはない。

私は消費税増税によって、いま消費のトレンドが大きく落ちているとは思っていません。今回は、前回の97年の時のように所得税減税6兆円をやらずに、ネット増税になっています。しかも前回は2%の引き上げだったけれど今回は3%で1.5倍です。その分、経済へのマイナス効果は大きい。

しかし、増税によって景気のトレンドがマイナスになり、歳入が減収になり経済が腰折れするという事態は、リーマン・ショック並のことが起きなければありえない。(つづく)

◇

森信茂樹(もりのぶ・しげき)

1950年、広島県生まれ。京都大学法学部卒業後、大蔵省(現・財務省)入省。英国駐在大蔵省参事、主税局総務課長、東京税関長、財務総合政策研究所長などを経て、2006年に財務省を退官。その間、東大、大阪大、早稲田大、プリンストン大学などで教鞭を執る。現在中央大学法科大学院教授、東京財団上席研究員。著書に「消費税、常識のウソ」「日本の税制——何が問題か」など。

プロフィール

大庭靖明(おおしか・やすあき)

1965年、東京生まれ。早稲田大卒。88年、朝日新聞社入社。アエラ編集部などを経て現在、経済部記者。著書に第34回講談社ノンフィクション賞を受賞した『メルトダウン ドキュメント福島第一原発事故』(2012年、講談社、13年に文庫化)を始め、『ヒルズ黙示録 検証・ライブドア』(06年、朝日新聞社、10年に文庫化)、『ヒルズ黙示録・最終章』(06年、朝日新書)、『望ちた翼 ドキュメントJAL倒産』(10年、朝日新聞出版)がある。近著は、編著者としてかかわった『ジャーナリズムの現場から』(14年、講談社現代新書)。キング・ウラムソンに強い影響を受ける。

大庭靖明の最新記事

【再びアベノミクスを聞く】第3回 森信茂樹・中央大法科大学院教授(下) 給付付き税額控除で勤労意欲の後押しを(2014/10/30)

テーマ: アベノミクス、成功なのか失敗なのか



フランソワ・トリュフォー特集が到来！(6) —『夜霧の恋人たち』のドラマチックな喜劇性(10/30) 森崎康

女性関係のテキトーな人選から、片山さつき氏や宮澤大臣のSMパー問題を考えた(10/28) 青木るえか

フランソワ・トリュフォー特集が到来！(5) —『アントワネットとコレット』の名場面など(10/27) 森崎康



竹信三恵子×深澤真紀「家事ハラ炎上！」爆走トーク(3) 「昔は良かった」幻想から脱却せよ(10/31) まとめ:WEBRONZA 編集部

【三省堂書店×WEBRONZA 神保町の匠】『ハリー・クラーウ——アイルランドの挿絵とステンドグラスの世界』(海野弘 解説・監修)——知られざる画家の、まさに決定版(10/30) 上原昌弘(編集者・七つ森書店)

【三省堂書店×WEBRONZA 神保町の匠】『評伝 ワーズワス』(出口保夫 著)——ロマン派の代表的詩人の伝記とは？(10/30) 小林章夫(上智大学教授)

編集部から

WEBRONZA+科学・環境ジャンルに鈴木達治郎さん(10/15)

11/5 トークセッション「日本人は人を殺しに行くのか」伊勢崎賢治氏と考える集団的自衛権(応募締切 10/28)(10/7)

WEBRONZA+政治・国際ジャンルに川嶋淳司さん(9/25)

WEBRONZA+政治・国際ジャンルに伊藤千尋さん(9/14)

WEBRONZA+社会・メディアジャンルに町聖聖さん(9/4)



大庭靖明

【再びアベノミクスを聞く】第3回 森信茂樹・中央大法科大学院教授(下) 給付付き税額控除で勤労意欲の後押しを

2014年10月30日

[アベノミクス、成功なのか失敗なのか](#)

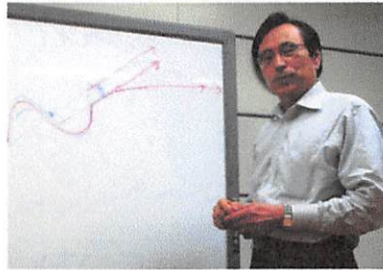
財政 金融

ツイート 8

1 2177 シェア 0

——増税して財政再建に役立ちそうですか。

結局その点です。何のための増税か、と。来年度予算は税収が増えるということで、すでに100兆円の予算要求になっている。それこそ何のための増税なのか、となる。安倍政権の最大の課題はそこです。総理が強力なリーダーシップを発揮しないと、税収は増えたけれど歳出も増えましたとなる。この点、財務省も増税のためには何でもやるというメンタリティーが見え隠れする。



森信茂樹・中央大法科大学院教授

拡大

注目すべきは消費税率を10%に決める際の補正予算です。不要不急の公共事業をたくさん盛り込んだり、「地方創生」を御旗に地方にばらまいたりしたら、いったい何のために増税したのだから、となりますよ。社会保障改革をきちっとやって、世界に公約している財政目標を達成していく姿勢を見せないと、投機筋からだけではなく国民からもそっぽを向かれることになる。

——そうなりそうでは?

歳出改革を極限まで推し進めて「もう参った」と国民が言うぐらいまでやって初めて、10%後の増税が課題になる。小泉首相は、そのような考えを持っていました。歳出改革をやっていけば、国民の方が増税の方がマシ、と言ってくるということをおっしゃっていた。消費税率10%までに引き上げた後は、当分歳出削減の時代にすべきです。

——結局痛みを伴う改革はやりたがらず、全部使っちゃおうというふうになりませんか。

重要なことは、国民が借金の多さに危機感を持って、政府が財政目標を守るかどうかを監視することです。このままではプライマリーバランスを2015年度までに半減するという目標すら達成できない。そうすると投機マネーが隙をついてきますよ。下手すると金利急騰。そうなったらパニックです。

いま利払いが0.6%でなんとかもっているけれど、GDPの2倍の借金残高があるわけで、金利が1%上がっただけで1兆、2兆円の歳出拡大になる。金利がもっと上がってくれば、あつという間に数兆円の歳出圧力になりますよ。消費税を上げてでもそれと同じくらいの利払い増加になってしまふ。「日本は歳出目標を守れない国だよ」と思われてしまう。

《プライマリーバランス(基礎的財政収支)とは、借入金をしないう歳入と借入金の元利払いを除いた歳出が均衡をとるということ。安倍政権は10年度に6.6%あったプライマリーバランスの赤字幅を15年度には3.3%に半減させたい、20年度に黒字化するという目標を掲げている》

——財政再建の前に成長戦略とかに使い切ってしまう?

「ベニスから出てくる液体ってなに?」フランス流性教育の真価(Global Press)

「益能兵士」の相次ぐ不祥事に揺れる韓国の徴兵制度(Global Press)

取材された難病少年も許さぬ怒り、日本の海外ロケの無茶(Global Press)

韓国のヘイトスピーチ 根強い外国人への偏見 対日デモには冷やかな視線も(Global Press)

難民か不法移民か 苦慮する米国、割れる世論(Global Press)

竹信三恵子×深澤真紀「家事ハラ炎上!」帰走トーク(3)「昔は良かった」幻想から脱却せよ(スペシャル(経済・雇用))

大学生諸君、学園祭やめませんか(WEBRONZA+ 経済・雇用)

羽生結弦、トロント現地レポート(3)——腰痛による欠場、何が起こったのか?(スペシャル(社会・メディア))

高橋大輔が出した答え(上)——これが、フィギュアスケートなんだ(スペシャル(社会・メディア))

羽生結弦、トロント現地レポート(4)——「がんばってね」か、「がんばりすぎないでね」か(スペシャル(社会・メディア))

(前日分を累計)

Facebook WEBRONZA公式ページ

WEB書評 神保町の匠 三省堂書店 × WEBRONZA

WEBRONZA+



政治・国際

ウクライナと日ロ関係をモスクワ、キエフで考える(4)——ロシアが探ったこと (11/04) 大野正英



政治・国際

ウクライナと日ロ関係をモスクワ、キエフで考える(3)——ソ連とロシアの国歌から見た強国の原理 (11/03) 大野正英



政治・国際

【憲法学で読み解く民主主義と立憲主義(4)】——二つの憲法の対立 (10/31) 木村草太



経済・雇用

米FRBによる量的緩和の終了と日銀の追加緩和が意味するもの (11/04) 吉松崇



経済・雇用

米国の量的緩和政策の終了...その後を日本が支えるのか (11/04) 齋藤進



社会・メディア

吉野川河口の危機、価値観の転換はなるか? (下) (11/04) まさのあつこ



文化・エンタメ

ノーベル文学賞発表日の書店のそわそわ (10/29) 白井恵美子



科学・環境

“奇跡の釜石”めざし、ラグビー19年W杯開催地選定で新たな価値創出を (10/25) 松瀬学



科学・環境

2020年東京五輪が促す新しい都市づくり (11/04) 小林光



科学・環境

今後の温暖化対策のカギを握る人材育成、そして都市のあり方 (11/03) 小林光



科学・環境

汽車の汽笛は本当にポポーか? ~認知科学者、保育園で世界認識の根幹を知る (11/01) 下塚信輔

歳出削減の主戦場は社会保障、なかでも年金です。

安倍政権は今まで国民に苦い政策を一切やっていないでしょう。消費税の引き上げを決めたのは民主党の野田政権だった。あのときに相続税増税や所得税最高税率引き上げ、給与所得控除に上限を設定することを決め、消費税負担が上がるときには高所得者や資産を持っている人にはもっと負担をという苦い政策を打ちました。

しかし安倍政権はそういうのを一切やってきていない。ですから社会保障をどう改革するかが試金石になります。年金を少しでも削減する方向で本当に議論できるのか。あるいは来年は介護報酬の改定がやって来る。

財務省は2015年度予算編成にあたって「介護報酬を9年ぶりに引き下げろ」といっているけれど、実現できるかどうか。その後には医療費も控えている。もろもろのものがあるけれど、社会保障費がどれだけ削減できるかが勝負でしょう。

増税しても、それをやらないのでは、財政規律はゆるんだままです。増税した意味がない。逆に本気で切り込んでいけば、消費税率を引き上げた方がマシ、という選択肢が国民から出てくる。

加えて、いろいろな政策を導入する必要もある。人口のアンバランスを調整する年金の「マクロ経済スライド」を発動する議論が進んでいます。これは、年金計算の前提となる人口などの変動に従って、年金給付額を毎年調整する仕組みで、今後毎年0.9%ずつ下がって20年後の基礎年金は月3万5千円前後になる。だから「最低保障年金」をつくって、一定のレベル以下には落ちないようにする必要があります。

あるいは、一生懸命働いているのにワーキング・プアになってしまう人々を支援する「給付付き税額控除」(ワーキング・タックス・クレジット)を創設して、若いうちから生活保護を受けることをやめさせ、働かざる者食うべからずという制度をつくる。

ほとんどの先進国で導入している「給付付き税額控除」は、一生懸命働いているのに貧困から抜け出せない人たちへの支援制度です。これによって「ワーキング・プア」の勤労意欲を支援して生活保護へは移行させない。私は2006年からこれを提案しているのですが、バラマキだという勘違いや誹謗中傷を受けています。

——なかなか実現しませんね。

省庁をまたがる政策なので、厚生労働省と財務省とで押しつけあってね。横断的にやらないといけないのだけれど日本の役所は縦割りなので、なかなかできない。ここに日本の政策形成の最大の問題があると思います。

新しいことをやるには財源が必要。私は消費税が引き上げられたとき財源ができるので絶好のチャンスだと思っているのですが、総合的な経済政策を立案する部署がない。

消費税を引き上げる際に税制抜本改革法第7条に「低所得者層への配慮」として、(1)給付付き税額控除、(2)軽減税率、その間は(3)簡素な給付措置——を講じることが定められているんです。ところが給付付き税額控除を担いできたのが民主党で、政権交代して野党になってしまった。

一方、公明党は軽減税率を担っている。いまは民主と公明が入れ替わったから(2)の「軽減税率」のイエスカノーかしか議論されていない。本来は(1)か(2)で議論すべきですが、与野党が変わったので(2)しか議論されていない。

軽減税率ほど意味のないものはないですよ。食品を軽減税率にしたら金持ちほど得することはわかるでしょう。「すき家」で牛丼を食べるとレストランサービスで軽減税率にはならないけれど、金持ちがデパートで松坂牛を買って家でやるすき焼きには軽減税率が適用される。こんな本末転倒なことはないでしょう？ これをやめて(1)の「給付付き税額控除」をつくれれば、日本の再分配政策は大きく変わります。その分、若者への生活保護は厳しくする。

——日本政府の政策立案能力は低いのでしょうか？

いまの政権は集団的自衛権とか外交戦略に興味があり、経済政策に振り向けるキャンペーンが小さい気がする。大所高所から総合的に政策を見ているような部署が官邸にない感じがします。



フランソワ・トリュフォー特集が到来！(8)
——『夜霧の恋人たち』の迷探偵アント
ワヌなど (11/04) 藤崎康

フランソワ・トリュフォー特集が到来！(7)——『夜霧の恋人たち』の絶対的な愛についての補遺、手紙の音声化など (11/03) 藤崎康

フランソワ・トリュフォー特集が到来！(6)——『夜霧の恋人たち』のドラマチックな喜劇性 (10/30) 藤崎康

目次

モンゴルと関係を強化する中国・ロシア (11/03) ボルジギン・フスレノフ 昭和女子大学准教授(東アジア国際関係)

竹信三恵子×深澤真紀「家事ハラ炎上！」爆走トーク(3)「昔は良かった」幻想から脱却せよ (10/31) まとめ・WEBRONZA編集部

【三省堂書店×WEBRONZA 神保町の匠】『ハリ・クラーク——アイルランドの挿絵とステンドグラスの世界』(海野弘 解説・監修)——知られざる画家の、まさに決定版 (10/30) 上原昌弘(編集者・七つ森書館)

編集部から

WEBRONZA+科学・環境ジャンルに鈴木達治郎さん(10/15)

11/5 トークセッション「日本人は人を殺しに行くのか」伊勢崎賢治氏と考える集団的自衛権(応募締切 10/28)(10/7)

WEBRONZA+政治・国際ジャンルに川嶋淳司さん(9/25)

WEBRONZA+政治・国際ジャンルに伊藤千尋さん(9/14)

WEBRONZA+社会・メディアジャンルに町亜聖さん(9/4)

経済財政諮問会議には、提案しても実現する力がなくなっている。「103万円の壁」を形成している配偶者控除の改革も、諮問会議は言うだけに終わってしまいそうで、総理のリーダーシップは見えません。



森信茂樹(もりのぶ・しげき)

1950年、広島県生まれ。京都大学法学部卒業後、大蔵省(現・財務省)入省。英国駐在大蔵省参事、主税局総務課長、東京税関長、財務総合政策研究所長などを経て、2006年に財務省を退官。その間、東大、大阪大、早稲田大、プリンストン大学などで教鞭を執る。現在中央大学法科大学院教授、東京財団上席研究員。著書に「消費税、常識のウソ」「日本の税制——何が問題か」など。

プロフィール

大鹿靖明(おおしか・やすあき)
1965年、東京生まれ。早稲田大卒。88年、朝日新聞社入社。アエラ編集部などを経て現在、経済部記者。著書に第34回講談社ノンフィクション賞を受賞した『メルトダウン ドキュメント福島第一原発事故』(2012年、講談社、13年に文庫化)を始め、『ヒルズ黙示録 検証・ライブドア』(06年、朝日新聞社、10年に文庫化)、『ヒルズ黙示録・最終章』(06年、朝日新書)、『墮ちた翼 ドキュメントJAL倒産』(10年、朝日新聞出版)がある。近著は、編著者としてかかわった『ジャーナリズムの現場から』(14年、講談社現代新書)。キング・クリムゾンに強い影響を受ける。

大鹿靖明の新作記事

- 【再びアベノミクスを聞く】第3回 森信茂樹・中央大法科大学院教授(上) 法人減税と消費税増税のパッケージで (2014/10/29)
テーマ: アベノミクス、成功なのか失敗なのか
- 【再びアベノミクスを聞く】第2回 高橋洋一・嘉悦大教授(下) 役所の発表では分からない真実 (2014/10/21)
テーマ: アベノミクス、成功なのか失敗なのか
- 【再びアベノミクスを聞く】第2回 高橋洋一・嘉悦大教授(上) 消費税10%への延期ありうる (2014/10/20)
テーマ: アベノミクス、成功なのか失敗なのか
- 【再びアベノミクスを聞く】第1回 若田部昌澄・早稲田大教授(下) 日本には政策イノベーションが必要だ (2014/10/11)
- 【再びアベノミクスを聞く】第1回 若田部昌澄・早稲田大教授(上) 増税派の本末転倒の議論 (2014/10/10)

[大鹿靖明の記事一覧へ](#)

関連記事



【再びアベノミクスを聞く】第3回 森信茂樹・中央大法科大学院教授(上) 法人減税と消費税増税のパッケージで (2014/10/29)
大鹿靖明



【再びアベノミクスを聞く】第2回 高橋洋一・嘉悦大教授(下) 役所の発表では分からない真実 (2014/10/21)
大鹿靖明



【再びアベノミクスを聞く】第2回 高橋洋一・嘉悦大教授(上) 消費税10%への延期ありうる (2014/10/20)
大鹿靖明



【再びアベノミクスを聞く】第1回 若田部昌澄・早稲田大教授(下) 日本には政策イノベーションが必要だ (2014/10/11)
大鹿靖明



経済政策を隠蔽する用語として アベノミクスは役割を果たしている —『Journalism』10月号から— (2014/10/11)
小田嶋隆(コラムニスト)



【再びアベノミクスを聞く】第1回 若田部昌澄・早稲田大教授(上) 増税派の本末転倒の議論 (2014/10/10)
大鹿靖明

[ページトップへ戻る](#)

朝日新聞デジタルの関連サイト
有料会員は適正料金までご利用可能。詳しく>

朝日新聞社から	デジタル事業から	グループ企業	各国語サイト (News in various languages)
会社案内	デジタルサービス一覧	朝日新聞出版の本	The Asahi Shimbun AJW (ENGLISH)
CSR報告書	携帯サービス	朝日新聞出版(dot.)	The Asahi Shimbun AJW Forum (ENGLISH)